

第6章 自然環境の現況

1. 生物多様性と特定外来生物

(1) 生物多様性

私たちの暮らしは多様な生物が関わりあう生態系からの恵みによって支えられています。人間の活動によって生態系の損失スピードは加速していると言われており、多様な種が存在できる環境の保全が求められています。

尾道市では、生物多様性に関する認識、自然環境の保全意識の高揚、行動の実践を促すことを目的として、地域に生息する生物の情報収集・発信等の取組を進めています。



向島の津部田港干潟に生息している
環境省の絶滅危惧2類「ハクセンシオマネキ」

(2) 特定外来生物

平成29年6月に日本国内においてヒアリが初めて確認され、大きな注目を集めました。尾道市では現在、ヒアリは確認されていませんが、すでに、オオキンケイギクやブラックバス（オオクチバス）、ブルーギル等のように尾道市でも繁殖をしている特定外来生物もあります。

こうした生態系に影響を及ぼす特定外来生物は、グローバル化した社会においては常に注意が必要です。

ヒアリ



オオキンケイギク



ブラックバス



ブルーギル



2. 有害鳥獣等

有害鳥獣のうち、特にイノシシについては近年被害が拡大しています。
また、スズメバチの苦情も毎年、一定数が報告されています。
それぞれ担当の部署等により対応を進めていますが、市民の皆様への情報提供を今後も進めていきます。

○第2次尾道市環境基本計画 成果目標No.4 「有害鳥獣被害金額」

イノシシ



スズメバチ



3. 自然環境を保全する取り組み

藤井川の夕べは、40年以上にわたる地域住民による自然環境保全の取り組みです。河川の浄化、ホタルの繁殖等、地域を挙げた取り組みは一定の成果を上げています。

また向島や瀬戸田における海浜清掃活動等、それぞれの地域において様々な取り組みが進められており、自然環境の保全が図られています。

藤井川の夕べ

